

氏家達夫教授 略歴・研究業績

[学 歴]

- 昭和47年4月 北海道大学入学
昭和51年3月 北海道大学教育学部卒業
昭和51年4月 北海道大学教育学研究科博士前期課程入学
昭和53年3月 北海道大学教育学研究科博士前期課程修了
昭和53年4月 北海道大学教育学研究科博士後期課程入学
昭和58年3月 北海道大学教育学研究科博士後期課程単位取得退学
- 平成14年3月 博士（教育学）北海道大学

[職 歴]

- 昭和58年4月 国立音楽大学講師
昭和62年4月 福島大学教育学部助教授
平成7年4月 福島大学生涯学習教育研究センター助教授
平成8年10月 福島大学生涯学習教育研究センター教授
平成13年3月 名古屋大学教育学部教授
平成13年4月 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター教授
平成17年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（平成20年3月まで）
平成18年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授
平成18年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員（平成20年3月まで）
平成22年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（平成24年3月まで）
平成25年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（平成26年3月まで）
平成27年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科長（平成29年3月まで）
平成27年4月 名古屋大学教育学部人間発達科学科長（平成29年3月）

[学会活動]

- 平成17年3月 日本発達心理学会理事（平成20年3月まで）
平成14年1月 日本発達心理学会機関誌編集委員会委員長（平成14年12月まで）
平成21年1月 日本発達心理学会機関誌編集委員会委員長（平成22年12月まで）
平成22年6月 日本教育心理学会理事（現在に至る）
平成28年1月 日本教育心理学会機関誌編集委員会委員長（平成29年12月まで）

研究業績

〈編著書〉

1. 子どもは気まぐれ 1996 ミネルヴァ書房
2. 親になるプロセス 1996 金子書房
3. 「個の理解」をめざす発達研究 2004 三宅和夫・陳省仁・氏家達夫 有斐閣
4. 基礎発達心理学 2005 氏家達夫・陳省仁編著 放送大学教育振興会
5. 発達心理学特論 2007 内田伸子・氏家達夫編著 放送大学教育振興会
6. 発達心理学概論 2011 氏家達夫・陳省仁編著 放送大学教育振興会
7. 親子関係の生涯発達心理学 2011 氏家達夫・高濱裕子編著 風間書房
8. 社会・文化に生きる人間 2012 氏家達夫・遠藤利彦編著（日本発達心理学会編、発達科学ハンドブック、第5巻）新曜社
9. 発達心理学事典 2013 日本発達心理学会編（編集委員長氏家達夫）丸善出版

〈分担執筆〉

1. 生態学的・介入的アプローチ 1982 波多野誼余夫編 教育心理学講座4 発達 朝倉書店
2. 愛着の発達 1990 木下芳子編 新・児童心理学講座8 対人関係と社会性の発達 金子書房
3. ストレス事態における子どもの行動の発達の变化 1991 三宅和夫編 乳幼児の人格形成と母子関係 東大出版会
4. 発達のモデルとしての進化の理論 1992 東洋・繁多進・田島信元編 発達心理学ハンドブック 福村出版
5. 自己調整理論 1992 日本道徳性心理学研究会編 道徳性心理学 北大路書房
6. 自己主張の発達と母親の態度 1995 二宮克美・繁多進執筆代表 たくましい社会性を育てる 有斐閣
7. 乳幼児と親の発達 1995 麻生武・内田伸子編 講座 生涯発達心理学2 人生への旅立ち 金子書房
8. 親になること、親であること 1999 東洋・柏木恵子編 社会と家族の心理学 ミネルヴァ書房
9. 親行動の世代間伝達の仕組みについての発達心理学的試論 2003 田畑治・森田美弥子・金井篤子編 臨床実践の知 ナカニシヤ出版
10. 青年期の縦断研究—抑うつ症状と非行行動の個人内変化 2009 三宅和夫・高橋恵子編 縦断研究の挑戦 金子書房
11. 問題行動の社会化 - 非行を中心に 2011 菊池章夫・二宮克美・堀毛一也・斎藤耕二編 社会化の心理学／ハンドブック 川島書店
12. 教育と発達 2013 速水敏彦編 教育と学びの心理学 名古屋大学出版会
13. 仲間関係の発達 2017 田島信元・岩立志津夫・長崎勤編 新・発達心理学ハンドブック 福村出版

〈論文〉

1. 認知的不協和が課題遂行に及ぼす効果 1974 心理学研究, 45, 189-197. (大橋正夫らと共同)
2. 自己統制における言語的自己教示と注意操作の効果について—その発達の検討 1978 北海道大学教育学部紀要, 32, 211-221.
3. 小学生の不正行動についての研究 1980 北海道大学教育学部紀要, 37, 111-128.
4. 誘惑に対する抵抗に及ぼす統制方略の効果の発達の検討 1980 教育心理学研究, 28, 284-292.
5. Prosocial behavior and its correlates in nursery school children. 1981 Annual Report 1979-1980 Research and Clinical Center for Child Development, 33-42.
6. 4-6歳幼児の社会的相互交渉についての研究 1982 北海道大学教育学部紀要, 40, 89-103.
7. Infant's temperamental disposition, mother's mode of interaction, quality of attachment, and infant's receptivity to socialization-Interim progress report. 1983 (Miyake, K.らと共同) Annual Report 1981-1982 Research and Clinical Center for Child Development, 5, 23-30.

8. Altruistic behavior, social cognition and person orientation in preschool children. 1983 Annual Report 1981-1982 Research and Clinical Center for Child Development, 5, 63-69.
9. 母子相互交渉と愛着の関係について—母親の感受性, 子どものIrritability, 母子相互交渉パターン, そして愛着の性質 1984 国立音楽大学研究紀要, 18, 17-24.
10. Responses to the strange situation in Japanese infants. 1985 Annual Report 1983-1984 Research and Clinical Center for Child Development, 7, 27-36.
11. 人間の利他性について 1985 国立音楽大学研究紀要, 19, 1-11.
12. Is the strange situation too strange for Japanese infants? 1986 Annual Report 1984-1985 Research and Clinical Center for Child Development, 8, 23-30.
13. 母親の膝はいつも安全基地か 1987 発達, 29, 75-86.
14. Relationship between strange situation classification at age 12 months and self-regulatory functioning at age 37 months. 1987 Annual Report 1985-1986 Research and Clinical Center for Child Development, 9, 45-49.
15. Strange Situationにおける愛着行動のパターンと分離前場面との関係について 1987 心理学研究, 58, 98-104.
16. 行動の自己制御機能の発達と愛着の関係について 1987 国立音楽大学研究紀要, 21, 39-45.
17. 幼児の自己制御機能測定を試み 1987 発達研究, 3, 105-114.
18. 愛着の測定法について—ストレンジ・シチュエーション法とABC分類 1988 看護研究, 21, 303-312.
19. 幼児の自己制御機能の発達: 絵画自己制御能力テストにおける4-6歳の縦断的变化について 1989 (田島信元らと共同) 発達研究, 4, 45-63.
20. 幼児のSelf-regulation (自己制御) の発達 1989 (柏木恵子らと共同) 発達研究, 5, 63-77.
21. ハイリスク児の発達と母子関係 1990 発達の心理学と医学, 1, 67-77.
22. 母子関係研究の方法論的問題: 母子関係におけるゆらぎ 1990 発達の心理学と医学, 1, 357-366.
23. 幼児の自己制御機能測定を試み(2) 1990 発達研究, 6, 87-99.
24. 子どもの発達は一通りには進まない 1991 発達, 45, 70-78.
25. 子どもたちの“交渉”が成立するとき 1992 発達, 49, 82-95.
26. 幼児と赤ちゃんとの相互交渉についての発達の研究 1992 乳幼児医学・心理学研究, 1, 65-72.
27. 1-2歳児の愛着行動の構造とその発達の变化 1993 乳幼児医学・心理学研究, 2, 47-58.
28. 3人の母親: その適応過程についての追跡的研究 1994 発達心理学研究, 5, 123-136.
29. 子ども時代の母親についての記憶が母親としての態度におよぼす影響について 1995 母性衛生, 36, 173-180.
30. How do Japanese mothers treat children's negativism? 1997 Journal of Applied Developmental Psychology, 18, 467-483.
31. Observer judgments of emotion in American, Japanese, and Chinese infants. 1997 (Camras, L.らと共同) K.C. Barrett (Ed.), The communication of emotion: Current research from diverse perspectives. New Directions for Child Development, 77, 89-105.
32. 子育てと親育ち 1998 発達, 73, 13-20.
33. 発達研究における文化的バイアスとその相対化 1998 発達, 76, 14-17.
34. Production of emotional facial expressions in American, Japanese, and Chinese infants. 1998 (Camras, L.らと共同) Developmental Psychology, 34, 616-628.
35. 中年期における心理社会的身体的変化に対する適応過程に関する縦断的研究—年齢を感じたできごととそれに関する評価・反応の分析— 1999 福島大学生涯学習教育研究センター年報, 4, 39-48.
36. 中年期における心理社会的身体的変化に対する適応過程に関する縦断的研究—中年期の目標・希望からみた時間的展望の様相についての分析— 1999 (五十嵐敦と共同) 福島大学生涯学習教育研究センター年報, 4, 27-38.
37. 福島市における健診と療育をつなぐシステムの現状と問題について 1999 乳幼児医学・心理学研究, 8, 3-8.

38. 中年期における心理社会的身体的変化に対する適応過程に関する縦断的研究—心理社会的発達尺度の検討— 2000 福島大学生涯学習教育研究センター年報, 5, 43-56.
39. 中年期における心理社会的身体的変化に対する適応過程に関する縦断的研究—中年期の人生・生活に対する態度のついで分析— 2000 (五十嵐敦らと共同) 福島大学生涯学習教育研究センター年報, 5, 57-66.
40. 中年期における心理社会的身体的変化に対する適応過程に関する縦断的研究—CES-D得点の経時的パターンについて— 2000 (青田華代らと共同) 福島大学生涯学習教育研究センター年報, 5, 67-74.
41. Cross-cultural comparison of emotion regulation in Japanese and American 11-month-old infants. 2000 Annual Report (1999-2000), Research and Clinical Center for Child Development, 23, 29-37.
42. 親になるプロセスと親であることへの習熟化 2001 助産婦雑誌, 55, 763-767.
43. Self-development in non-assertive society. 2002 Nogoya Journal of Education and Human Development, 1, 103-112.
44. Family theory, attachment theory, and culture. 2002 (Rothbaum, F.らと共同) Family Process, 41, 328-350.
45. 母親の育児意識 2003 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 6(1), 11-25.
46. 中学生の親が知覚した中学生の社会的行動 2004 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 6(2), 1-13.
47. 中学生の親のしつけ行動と夫婦関係 2004 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 7(1), 1-11.
48. 中学2年生を子どもにもつ親の意識—家庭の雰囲気、配偶者との関係、しつけ行動、親権威概念などについて— 2006 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 8(2), 23-30.
49. 親の成長と子育て 2006 教育と医学, 54(9), 13-21.
50. 中学3年生を子どもに持つ親の意識—家庭の雰囲気、配偶者との関係、しつけ行動、自己犠牲對自己優先などについて— 2007 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 9(2), 39-47
51. Do infants show distinct negative facial expressions for fear and anger? Emotional expression in 11-month old European American, Chinese, and Japanese infants. 2007 (Camras, L.らと共同) Infancy, 11(2), 131-155.
52. 中学生を持つ父親・母親に関する縦断研究—子どものふだんの行動の様子についての知覚の変化 2009 (二宮克美らと共同) 愛知学院大学情報社会政策研究, 11(2), 15-29.
53. 中学生の逸脱行為の深化に関する縦断的検討 2009 (西野泰代らと共同) 心理学研究, 80(1), 17-24.
54. 夫婦関係が中学生の抑うつに及ぼす影響：親行動媒介モデルと子どもの知覚媒介モデルの検討 2010 発達心理学研究, 21(1), 58-70.
55. Longitudinal study of the relationship between victimization and later emotional problems among Japanese junior high school students. 2011 (Nishino, Y.らと共同) Journal of Aggression, Conflict, and Peace Research, 2011, 3(2), 115-121.
56. 中学生の抑うつ傾向に対する両親の認知と養育行動の変化 2012 (丸山笑里佳らと共同) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 59, 79-89.
57. Cultural difference in conflict management strategies of children and its development: Comparing 3- and 5-year-olds across China, Japan, and Korea. 2015 (Maruyama, H.らと共同) Journal of Early Education and Development, 26, 1210-1233.
58. 原子力災害が福島の子どもたちに与えた心理的影響—発達心理学的研究がとらえた事実と今後の問題 2016 子育て支援と心理臨床, 11, 73-82.



氏家 達夫 教授